



大学院文学研究科[※] 出身

鄭西吟さん

平山郁夫美術館
学芸員

※現 大学院人間社会科学研究科

てい・せいざん / 中華人民共和国四川省出身。同国の大学を卒業後、広島大学大学院文学研究科にて倫理学を学ぶ。2019年、在学中に平山郁夫美術館でのインターンシップに参加。2022年修了後、同美術館にて学芸員として勤務。

不思議な縁に導かれて 美術館初の外国籍学芸員に

広島県出身の画家・平山郁夫の作品を研究・紹介する学芸員として働いています。私が平山先生を知ったのは、当館と包括協定を結んでいた広島大学を通じて、インターンシップに参加したとき。日中の文化財保護や、文化交流における功績を知って感銘を受けました。そしてかつて訪れた^{とんこうぼつこうくつ}「敦煌莫高窟」を思い出したのです。約1000年かけて作られた、美しい石窟寺院。それを保護したのが平山先生だったと気付いて不思議な縁を感じ、先生の思いを広めたいと思うように。大学院で研究をする傍ら学芸員の資格を取得し、当館初の外国籍学芸員として採用されました。

大学院では実践的な哲学を学びたいと応用倫理学を専攻。哲学を応用し、芸術とは、理性と感性の融合による産物であると主張しました。作品の背景などを語る「理性」と、作品に共感する「感性」。学芸員として鑑賞する際、大学院での研究と仕事のつながりを感じます。

平和を願い 芸術の素晴らしさを広めたい

どのような切り口で先生の作品を展示するか決めるのは、学芸員の重要な仕事です。より多くの方が興味を持ってくれるテーマを考え、数年かけて企画展の準備をします。作品研究や来館者への解説に加え、広島大学でワークショップを開くことなども。業務内容は多岐にわたります。

あるとき中国からの来館者に中国語

で案内を行ったところ、先生の作品や活動に感動して友達と共に再訪してくれたことがありました。自分の案内で先生の思いが伝わっていったことが心からうれしく、印象に残っています。悲惨な争いが絶えない今日だからこそ、国境を越えて人々をつなぐ芸術の素晴らしさ、そしてそれを守りたいという先生の思いをもっと広めていきたいと思っています。

心に響いた人生の名言

日本に来たばかりのころに研究室の先生に言われた、「勉強だけでなく生活も楽しんで」という言葉。休暇の際は芸術の島・香川県直島に滞在し、島民の自由な気風や芸術作品に刺激を受けています。